

# 平成29年度 学校経営方針

香美町立 小代小学校

## 1 基本方針

- 小代小学校の教職員としての使命感と誇りを持ち、子どもに愛情を注ぎ、常に子どもと共に歩む。
- 小規模、少人数の教育（へき地教育）環境を生かし、個を伸ばす教育を推進すると共に、ふるさと小代の特性を生かした教育課程を工夫し、知・徳・体の調和がとれた、自立した人間としての基礎づくりに努める。
- 開かれた学校運営に努め、小代地域の自然・文化・伝統を尊重し、保護者・地域と連携した教育活動を展開する。

## 2 校訓

「強く 正しく 清く 優しく 直く 明るく」

## 3 教育目標

ふるさとで学び 誇りと夢をもち たくましく  
心あたたかい 小代っ子の育成

みんなで創る お じ ろ

お …… 思（おも）い切り活動する子

じ …… じぶん（自分）から、あいさつのできる子

ろ …… 心（こころ）優しい子

めざす学校像

- ・ 明るく元気なあいさつが飛びかう学校
- ・ 子どもが生き生きと活動する学校
- ・ 教師と児童がともに信頼しあう学校
- ・ 地域に信頼される学校

めざす児童像

- ・ 気持ちのよいあいさつや返事が先にできる子（あいさつ先遣）
- ・ 友だちを尊重し、友だちの思いをくむ子
- ・ 自ら進んで取り組み、最後までやりぬく子
- ・ 自ら学び、考え、良いことは進んで実行する子

めざす教師像

- ・ 授業を大切にする教師
- ・ 子どもを認め、「ほめる」指導でやる気を育てる教師
- ・ 自己研鑽に励み、指導力の向上に努める教師
- ・ 鋭い人権感覚をもち、情熱と使命感を持つ教師

## 4 指導の重点

- ① 学習指導
  - ・計算や漢字、読書（外国語活動）などの「学習タイム」を設定し、学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実に習得させる。
  - ・「ほめる」指導を通して、「課題解決的な学習」や「協働的な学習」に取り組み、「主体的・対話的な深い学び」を展開する。
  - ・新学習指導要領をもとに、ALTや中学校教員との連携を図り、外国語活動の充実に努める。
  - ・魅力ある授業を展開し、キャリアノート等を通し、夢や目標を抱き、それに向かって進む力を育てる。（キャリア教育の推進）
  - ・「香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン」を通して3校との交流を深め、児童の学習意欲の高揚や教師の指導力向上を図る。
- ② 人権教育
  - ・自尊感情、命の大切さ、友だちを尊重する心を重視し、人権感覚に鋭い児童を育成する。
  - ・様々な体験活動を通して、命の尊厳に気付かせ、生命尊重の精神を養う。
  - ・共生の心を育て、仲間との信頼関係を深める態度を育成する。
- ③ 道德教育
  - ・道德の時間を要として、教育活動全体を通じて、道德的心情、判断力、実践意欲、態度を養う。
  - ・体験活動を通して、内面に根ざした道德性の育成を図る。
  - ・副読本の指導を通して、学校・家庭・地域と連携した道德教育の充実に努める。
- ④ 特別活動
  - ・集会活動や発表活動を工夫し、児童の主体的な活動を活性化すると共に、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団活動を一層充実させる。
  - ・よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てると共に、自己を生かす能力を養う。
- ⑤ 生活指導
  - ・児童の内面を理解し、人間的なふれあいに基づく指導を充実する。
  - ・気持ちのよい挨拶や正しい行動のできる、心豊かで正義感あふれる児童を育む。
  - ・基本的生活習慣を職員間で共通理解し、継続的に指導し定着させる。
  - ・学校の教育活動全体を通じて、社会的自立に向けての基礎を養う。
  - ・いじめや不登校等については、保護者・地域・学校種間・関係機関と連携を密にし、授業づくりや集団づくり、適切なかかわり等、予防のための取組を充実させ、早期発見、早期対応に努める。
- ⑥ 健康・安全
  - ・「体力づくりタイム」を設定し、「ほめる」指導を通し、目標を持って体力づくりに取り組ませ、個々の児童の基礎体力を高める。
  - ・栄養教諭をはじめ全ての教職員が連携し、ふるさと給食を通じた食育の充実に努めると共に、生涯にわたって自分自身で健康管理ができる資質や能力を育む。
  - ・食物アレルギー等、子どもの健康について共通理解しながら指導にあたると共に、危機管理体制の整備を図る。

- ⑦ 特別支援教育
- ・支援の必要な児童について職員で共通理解しながら指導にあたると共に、特別支援にかかる研修を実施し、児童への指導力向上を図る。
  - ・授業の始めに見通しを持たせたり、視覚的支援をしたりし、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業の工夫や改善を図る。
  - ・特別支援学校等と連携しながら、インクルーシブ教育システムの構築を図る。
  - ・SAとの連携を深め、SCとの相談体制を構築し、支援の充実に努める。
  - ・特別支援学級の開設に向け、指導体制や指導方法の構築を図る。
- ⑧ こども園・中学校との一貫化の推進
- ・小代認定子ども園、小代中学校との話し合いを定期的に持ち情報交換を密にする。
  - ・具体的な取組については、適宜協議をし、協力して事業を行う。  
(外国語活動・生活指導・保護者支援の在り方・特別支援教育・問題行動等)
- ⑨ 家庭・地域との連携
- ・家庭と連携し、学習習慣を確立し、学習意欲を高める。
  - ・家庭・地域と一体となって、健康教育、生活習慣の確立を推進する。
  - ・地域や家庭と連携し、子どもたちの読書意欲を一層高める。
- ⑩ へき地教育・ふるさと教育の推進
- 視 野に入れながら、「ふるさと小代」について学ぶ「体験的なふるさと学習」を充  
実さ せ、自尊感情や郷土愛を育てる。
- ・ふるさとの良さや「地域の価値」を見出すふるさと教育を充実する。